

○佐喜浜小中学校統廃合に関するPTAアンケート調査に対する教育委員会の見解

番号	項目	ご意見	見解
1	災害時の不安	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時家族と離れる。 ・すぐに迎えに行けない。 ・先生方やボランティアが子どもたち全員のお世話をするというのも現実的ではない ・道路寸断等で数週間子供に会えない場合の子ども、親双方の不安・心配を考えているのか。 	<p>○生徒が在校時に津波の災害が起きた場合、統合中学校は非浸水区域内に位置しているため、避難場所への避難でなく、学校内での避難となります。この点は、浸水区域内に位置している現佐喜浜中学校に比べ、生徒の安全確保は図れると考えています。</p> <p>○一方、津波等で国道が遮断された場合は、復旧する間は生徒は学校での避難生活になり、家族と離れた生活になります。この点は解消が難しい課題と考えています。</p> <p>○学校では、保護者へ引き渡すまでの間は、教職員が生徒を保護します。</p> <p>○支援を要する生徒については、他の者と別の教室等で避難させるなどの対応が必要と考えています。</p> <p>○また、統合中学校は、住民の避難場所に指定する予定で、体制が整い次第、市災害対策本部による避難所運営となり、市職員と教職員が連携して、生徒の安全確保等を行うこととなります。</p> <p>○この間の生徒の安否確認は電話等の通信手段が復旧するまでの間は、市災害対策本部と佐喜浜地区災害拠点施設（佐喜浜コミュニティーセンター）の衛星携帯電話等のやり取りで確認することとなります。</p> <p>○通学中の津波発生への対応としては、各地域に整備している避難場所（市内257ヶ所）への避難となるため、スクールバスを最寄りの避難路付近に停止させた後、運転手が児童生徒を避難場所まで誘導する形を想定しています。</p> <p>○このため、バス運行時安全計画の策定、避難場所のわかる津波防災マップのスクールバスへの常設及び運行会社への避難研修等は必要と考えています。</p> <p>○また、スクールバスの非常時の連絡手段の確保（衛星携帯電話等）は必要と考えています。</p>
2	通学手段の問題	<ul style="list-style-type: none"> ・病気や家庭の事情で、遅刻、早退時に室戸まで送迎せざるを得なくなり負担が大きい。 ・発達障害など、定時のスクールバスに乗れる生徒ばかりでなく、親の負担が大きい。 ・学校が遠くなることで、スクールバスに乗せるための準備の時間が早くなる。 	<p>○病気や家庭の事情などでスクールバスに乗れない場合などへの対応には限りがありますので、こうした場合は原則、保護者に送迎をお願いする形になります。</p> <p>○特別な事情がある生徒で、スクールバスでの対応が難しい場合、公費負担による東部交通バスやタクシーの活用等は選択肢の一つと考えます。</p> <p>○これにより難しい場合は、保護者の協力を求める形となります。</p> <p>○地元で学校があった場合と比べ、通学時間が長くなることによる負担は解消できない課題と考えますが、始業時間のあり方など、学校運営の中で通学時の負担軽減に向けどのような対応がとれるかは、学校関係者を含むあり方検討委員会で協議してまいります。</p>
3	通学時間の不平等	<ul style="list-style-type: none"> ・佐喜浜から室戸までは少し遠い ・高校は仕方ないが、小中は家の近くに通わせたい ・近くの子どもと比べると通学時間に100時間以上の差が出る。中学時代の貴重な100時間以上を無駄になることをどう考えているのか。 	<p>○本市の地理的状況から、地域によって、通学時間に差が出るのは解消できない課題と考えます。</p> <p>○スクールバスの運行形態（便数、コース、直行便等の工夫）により、通学時間を出来るだけ短縮できるよう、取り組んでいきます。</p>
4	いじめ問題への不安	<ul style="list-style-type: none"> ・市に1つしか中学校がない状態では、いじめが起きたときの逃げ場がない。 ・逃げ場がないと、市外への転校、転居を考えるしかない。 	<p>○学校の統廃合にあたっては、大きな課題であると考えています。</p> <p>○教育委員会としては、逃げ場の確保のみを理由として、学校を残すことは難しいと考えています。中学校については、生徒数や教職員数の適正な規模、南海トラフ地震から生徒や教職員の命を守るために、統合中学校が必要と考えており、こうした中でどのような支援がとれるかを考えていく必要があります。</p> <p>○課題を抱える生徒への支援については、統合中学校の中で、少人数指導、校内適応教室や特別支援学級などのありかた、スクールカウンセラー、養護教諭の相談活動や個に応じた支援のための人的配置に取り組んでいきます。</p> <p>○また、不登校に関する国の動きの中では、今年3月の文部科学省の通知により、教育支援センターの機能強化、自宅等においてICTを活用した学習活動など、教室以外の学習等の適切な評価等を推進していくとしています。</p> <p>○統合中学校の開校は5年後でありますので、この間の国の動きに留意し、取り入れることのできるものについては、統合中学校の学校運営の中で実行していくことは可能だと考えています。</p>

番号	項目	ご意見	見解
5	地域との関係の希薄化 地域消滅の危機感	<ul style="list-style-type: none"> ・学校がなくなることで、地域の活性化も見込めなくなる。 ・地域の特色を生かした教育をしてほしい ・地域の文化がなくなる ・地域に密着した学校生活がなくなり、子どもたちにとっても地域の人にとっても楽しみがなくなる。 ・現在は学校と地域が密着した良い関係が築かれているが、学校がなくなると地域がさびれる。 ・地域の歴史や文化などその地域の学校で学び成長してほしい。 ・統廃合により、中学から市外へ進学など、人口流出は増加すると思う。統廃合はせずに、学校を残す方法を考えてほしい。 	<p>○今まであった学校が地域からなくなれば、地域が寂しくなることは否めないと考えています。やはり寂しくなると考えております。</p> <p>○一方、生徒数の減少により、中学校については、段階的に1校に統合を行うべきであると、検討委員会からの報告もあります。まずは子どもたちの教育環境を優先して考えていきます。</p> <p>○今後ますます生徒数の減少が見込まれる中、一定規模の生徒数、教職員数が確保できた教育環境を作ることが、室戸の中学生にとって必要と考えており、中学校の令和10年度の統合は必要と考えています。</p> <p>○統合中学校の生徒が地域の文化の継承や地域愛を育んでいくためには、統合中学校の教育活動に地域との協働活動や学習を取り入れていく必要があると考えています。</p> <p>○統合中学校になっても、各地域の方に入っていただき、地域学校協働本部や学校運営協議会などの組織を通じた取組は進めていきます。</p> <p>○また、その取り組みの中で、生徒がこれまであまり触れることがなかった他の地域の文化や伝統に触れる機会ができることは期待できると考えています。</p> <p>○どのような取組を行っていくのかは、学校のあり方検討委員会の協議の中で、学校、地域の方たちなどで決めていきたいと考えています。</p>
6	教育の質の問題	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模な学校でのびのびと学んでほしい ・少ない人数で行き届いた教育が受けれていたのに、人数が増えて理解できずに遅れていくこともありそう ・保・小・中合同での行事や「さきはまつり」の開催など、佐喜浜ならではの取組が統廃合でなくなってしまうのは残念でもったいない。 ・都会では少人数教育、複式学級の良さを活かした教育、学校をまたいだ合同部活などが、コミュニケーション力、自発的に考える力、他者を思いやる心を育むとして注目されている。なぜ世の中の流れに逆行するようなことをするのか。 ・少人数を活かした特色ある教育、少人数だからこそ、出来る質の高い教育を考えた方が市の未来を創るのではないか。 ・ジオパークの世界的なネットワークを活用すれば、世界中とつないでグローバルな特色ある教育ができるのではないか。その方が人口流出抑制、移住者増加にもつながるのではないか。 	<p>○現在、市内の学校では、それぞれの学校が持つ良さを活かしながら、創意工夫し、地域との連携を図りながら、小規模校の課題を補う努力をしています。</p> <p>○しかしながら、学校の努力だけでは解決することが難しい課題もあります。人口減少に伴う生徒数の減、生徒数の減に伴う学級数の減による教職員数の減、こうした状況が教育に与える影響は様々な面であると考えています。</p> <p>○統合中学校では、一定規模の生徒数、教職員数が確保できることにより、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士の人間関係、生徒と教員との人間関係に配慮した学級編成ができ人間関係の固定化を防ぐことができる。 ・運動会など集団活動や体育の球技などの集団学習の場が確保できる。 ・複数の教員が同時に授業に関わる体制（ティームティーチング）や習熟度別指導など多様な指導方法により個に応じたきめ細かな指導と集団の相互作用を活かした指導の両立ができる。 ・免許、経験年数、専門性などのバランスの取れた教員配置ができる。 ・各教科の免許を持つ教員を配置しやすくなる。 ・生徒のニーズに応じた部活数の確保などができるようになります。 <p>○今後の生徒数の減少が見込まれる中、こうした生徒数、教職員数が確保できる教育環境を作ることが、室戸の中学生にとって望ましいと考えています。</p> <p>○複式学級等の良さを活かした一例としてイエナプラン教育のご提案もあります。全国で私立小中学校各1校、公立小学校が1校と認識しています。イエナプラン教育は、生徒が自分で1週間の学習計画を立てて、それに沿って個別に計画を立てるため、生徒によって勉強する科目やタイミングは様々で、また、3学年の子どもが一緒になる異年齢グループをつくって学習するなど、従来の一般的な日本の学校のあり方と大きく異なります。</p> <p>○今後において、こうした新しい授業の形を導入する学校の状況がどう推移していくかはわかりませんが、イエナプランを導入している小学校の規模を見ますと、定員が180名であり、こうした学校運営にも一定規模の児童数や教職員数が確保できている環境は必要ではないかと考えています。</p> <p>○また、佐喜浜小学校では、スタンダード学習として、教師主体でなく子どもが主体となって授業を進める形を取り入れています。統合中学校でこうした子どもに主体性を持たせた授業のあり方を検討していくことは大事であると考えます。</p> <p>○ジオパークを活用した教育につきましては、室戸高校が先行して取り組んでおり、そうした取り組みを高校と連携して統合中学校でも取り入れていくことは可能であると考えています。</p> <p>○中学校で具体的にどのような取組ができるのか、授業のカリキュラムのあり方などについては、学校との協議も必要で、あり方検討委員会の中で、協議してまいります。</p>

番号	項目	ご意見	見解
7	子どもの気持ち	・子どもたちに関わる問題なのに、なぜ当事者である子どもたちに意見を聞かないのか。	○南海トラフ地震対策、将来的な生徒数の減少などを踏まえた学校の適正規模・適正配置については、様々な観点からの判断が求められており、関係する大人が責任をもって決めていかなければならないと考えています。
8	市の財政への懸念	・市役所建て替えなどでもお金がたくさんかかるのに、学校統廃合しても市の財政は大丈夫なのか。	○学校の統廃合については、児童生徒数の減少に伴う教育課題への対応、南海トラフ地震から子どもたちの命を守るために必要な事業であり、一定経費が発生しても取り組んでまいります。 ○財政部署とは、庁舎と学校を整備した場合の財政見込等について協議はしており、国の補助金や有利な起債（借金）を活用することで、実質の市の負担を抑制する形を考えています。 ○庁舎については、現時点で、整備の方向性が決まっていますが、中学校については先行して進めてまいります。 ○また、現時点でお示ししている事業費については、概算のものであり、今後施設の計画ができましたら、具体的に金額が固まってきます。
9	小中一貫校案がないことへの懸念	・1校に統廃合というより、小中の統合を考えた方が良いと思うがなぜその案がないのか。	○小中一貫校にして地域に学校を残したいというご意見については、他の地域でも出ているものでございます。 ○地域に学校を残したいという気持ちは、教育委員会も同じ思いです。しかしながら、小中一貫校としても、中学校の生徒数の減少による教育課題の根本的な解消にはつながらず、今後の生徒数の推移、令和10年度以降もさらに減少していく状況を考えますと、一定規模の生徒数、教職員数が確保できた教育環境を作ることが、室戸の中学生にとって必要と考えており、中学校の令和10年度の統合は必要と考えています。
10	その他	・部活については、合同ですればよいのでは。他校の生徒とかかわり、立派なコミュニケーション力を育む機会である。 ・廃校予定の校舎を廃校後どうするのかを決めたうえで、話を進めなければならない。 ・佐喜浜地域を活性化すると言いながら、なぜ矛盾する学校統廃合をするのか。	○部活動について、合同で行う形も生徒数の減少の中では選択肢の一つとなっています。しかしながら、今回の統廃合については、生徒数の減少による教育課題の解消に向けて進めるもので、部活動だけの問題だけではないと考えています。 ○また、部活動についていえば、一定規模の学校の中では、生徒のニーズに沿ったある程度の部活数の確保ができるものと考えています。また、合同で行う場合の練習時間や移動手段的確保など、同じ学校で行うことができればその負担も軽減できると考えています。 ○統廃合後の校舎、体育館、グラウンドなどの施設については、防災、社会教育、市民スポーツ等の活用も含め、市全体の課題であるため、地域の方々のご意見も伺いながら、令和10年度までには方向性が見いだせるよう検討していきます。 ○今までであった学校が地域からなくなれば、地域が寂しくなることは否めないと考えています。しかしながら、まずは子どもたちの教育環境を優先して考えていきます。 ○その上で、統合中学校の生徒が地域の文化の継承や地域愛を育てていくためには、統合中学校の教育活動に地域との協働活動や学習を取り入れていく必要があると考えています。